

共同礼拝

2022年4月3日(日) 午前10時30分

午後2時

司式 牧師 姜 徑米

前 奏

招 詞 詩編 118編23～25節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

イザヤ書 53章1～12節(旧1149)

マタイによる福音書8章14～17(新13)

祈 禱

使徒信条

教会学校教職員任職式

讃 美 歌 138(1)

説 教 「患いを負い、病を担い」

牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 205(1)

聖 餐 式

献 金

頌 栄 544

祝 禱

黙 禱

4月の祈り

主の十字架の苦しみと死によって与えられた恵みを受け止め、今も生ける復活の主イエス・キリストと共に生きる喜びと確かさを覚えて。

戦争の痛みに覆われている世界の嘆きを主が聞いてくださるように。戦火が早く止み、人々の生活が回復されるように。弱い立場の人々や子どもたちが守られるように。

今日の祈り

この一年の主の恩寵を回顧し、恵みを数え、希望に歩み出すことができるように。

常に平和を求め、諦めることなく祈ることができるように。弱いもの、幼いものの命が守られるように。主の御心による平和が実現するように。

教会学校の働きが守られ、教職員が主の守りの内にその務めを果たすことができるように。

「患いを負い、病を担い」 高橋和人

マタイによる福音書 8章14～17節

主イエスのなさったことその姿は聖書が語ること、(旧約)聖書の言葉の実現であった。主の誕生自体が神の言葉の実現であった(1:22)。

主イエスはペトロの家に行かれた。その家はガリラヤ湖畔のカファルナウムにあり発掘されている。中庭にある大きめの普通の家のような。そこは主の活動の拠点であった。

この日は、山上の説教から始まった。そして、主イエスは山を下り、重い皮膚病の者、百人隊長の僕を癒し、ペトロの家に行った。そこでは、姑が熱を出して寝込んでいた。

主は語り、主は癒された。この癒しは、現代の医

療とは違っていた。肉体から魂までを含んでの回復であった。さらには人と人、神と人との関係が回復されることであった。ねじれたもの歪んだもの失われたものが取り戻されることである。皮膚病は清められた証明を受け、百人隊長は帰った。そこまで癒しである。

主イエスは熱を出して寝込んでいる姑の手に触れると熱は去った。彼女を打ちたたいていた熱が去り、熱から解放された。彼女は起き上がりもてなした。もてなしは「奉仕」のこと、主は手に触れ、彼女の奉仕を取り戻された。

夕方から次の日が始まる。人々は悪霊に取りつかれたものを大勢連れてきた。主は休むことなく働かれる。言葉で悪霊を追い出された(4:23)。それが病人を癒すこととなった。

山上の説教を語られた主が触れられたことによって姑は癒され、言葉によって悪霊は追い払われた。山上の説教の響きは人を健やかにする。主イエスの言葉は真の回復をもたらす。主の福音は病氣と患いを癒された。

この主の姿を福音書は苦難の僕の姿の実現に見た。主は権威ある力強いことを語りそれで特別な癒しの力を発揮したというのではなかった。その姿は確かに「わたしたちの患いを負い、わたしたちの病を担った」ことだと確信させた。

負う、担うは身に受けること。慈しみをもって、語り掛けてくださった主は、人の痛みをご自分に負われた。そこに旧約聖書の成就を見た。

十字架の主を知ること神の言葉の実現が見える。肉体の健康がすなわち健康ではない。健康な時には見えないものが多い。神と人との回復は受難の主の十字架を知ることにある。